

令和3年度（R3.4月～R4.3月）学校運営評価

●評価は、Ⅰ～Ⅹの各カテゴリーごとの項目を 5.良い 4.やや良い 3.普通 2.やや不十分 1.不十分 で採点し、その平均点として表したものである。

カテゴリー・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
Ⅰ 学校経営 (5項目)	<p>評価点【 4.7 】*昨年4.7</p> <p>「学校経営」全般の評価としては、昨年平均4.7同様、今年度平均4.7と高評価であった。</p> <p>評価項目1の養成所設置目的及び管理運営、運営計画、教育理念等は明示されており、毎年教職員で確認しているため、教職員の認識・理解度は高く、高評価であった。</p> <p>評価項目2の意思決定機関、意思決定システムについては、システムは明確にされているものの、教職員全員への周知方法が改善されていないとの意見があった。職員会議等で決定した意思に変更がある場合は、朝礼等を活用するなど周知に対する工夫はしているが、突発的に変更した決定事項が教職員全員に伝わっていないことがあるため、さらに周知を徹底するための改善・強化が必要である。</p> <p>評価項目4「運営計画と将来構想があり、年間・短期・中期計画に基づいた実施・評価」については、策定システムの検討はなされているが、タイムスケジュール等文書で明示するなど、具体的に教職員全員に示してほしいとの意見があった。また、令和4年度には、富士市立看護専門学校に関して幅広く意見を聴取するために、近隣関係者を招いての意見交換会を計画している。その点は、富士市立看護専門学校の今後の運営計画や将来構想を考えていく上で必要不可欠であることから、大いに評価はできる。しかし、策定に関する具体的なタイムスケジュール等の明示がない中での検討は不十分であるとも考えられ、効果的に検討を進めていくには、早急に文書等による明示が必要と考えられる。</p> <p>評価項目5、学校運営評価の外部公表は、外部から第三者を迎えて立ち上げた学校評価委員会にて、学校運営評価をしていただく。令和元年度事業の学校運営評価結果から、ホームページで公表を行っている。令和3年度事業も、学校評価委員会にて評価していただき、ホームページにて、引き続き外部公表する予定である。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営について、教職員間での周知が十分でない点は、突発的な変更時ということが明確なため、速やかに改善できるのではないかと捉え、全体として周知に努めていると思われる。</li> <li>・運営計画と将来構想では、近隣関係者を招いて意見交換の計画は大いに評価できると思ったが、策定においてのタイムスケジュール明示の不足は、システムづくりの準備には不可欠なため、早急に明示し、進めていただきたいと思う。</li> <li>・全般的によく運営されている。</li> </ul>
Ⅱ 教育課程・教育活動 (2項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年4.8</p> <p>2022年の新カリキュラム開始に向けて計画的に進めることができている。その過程において現行課程の評価を行い、反映している。教育活動では、今年度もCOVID-19の感染拡大による影響を受けたが、ICT環境を計画的に整備し、電子黒板や模擬電子カルテ、高機能シミュレーター等を活用し、オンライン授業やシミュレーション教育への取り組みが増加している。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COVID-19感染蔓延の中で、新カリキュラム開始において、教育課程の構築を計画的に進め、ICT環境を速やかに整備し、充実した教育の提供に努め、大いに評価できると思う。</li> </ul>
Ⅲ 授業・学科 (5項目)	<p>評価点【 4.5 】*昨年4.7</p> <p>項目8「1単位(30時間)につき、担当者を3人までにしている(専門基礎を除く)」については、昨年度同様評価が低い。看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインには明確な規定はないことから、新カリキュラムにおいてもより専門的な講義を依頼していく予定である。複数講師による学生の不利益を回避し学習効果を高めていくためにも、評価指標の変更も含めた検討を行っていく必要がある。</p> <p>また、項目8「必要に応じた担当者間の(外部講師を含む)の調整をしている」について、教科書の改訂に伴う担当者間の連絡調整に不備があった。改訂の情報を速やかにシラバスに反映し、特に4月開講の外部講師への連絡に留意する必要がある。</p> <p>項目9「学習の順序性を考慮した時間割となっているか」については、特に外部講師の担当科目において調整に努力を要する状況が続いており、可能な限りの対応をしている。</p> <p>項目10「学習の習熟度に応じて授業内容および実習内容を検討している」については、科目担当者による授業評価により工夫や改善がされている。今年度入学生より電子教科書が導入となり、横断検索機能やマーク機能、豊富な視聴覚教材の活用等、学生の満足度も高く、学習の効率化や主体的な学習につながっている。また、学習管理システムで学生の反応を効果的に吸い上げ、個別対応や、全体への投げかけ、授業では電子黒板を活用したグループディスカッションにつなげるなど、アクティブラーニングに向けた取り組みが増加している。学力不振者への学習支援としては、専門基礎科目の学科試験後の振り返り指導や国家試験対策等で学生の学習状況に合わせて個別指導を行っている。再試験受験者への特別補講が必要な科目があり、自己学習の方法や効果についても把握していく必要がある。</p>	<p>評価点【 4.5 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の専門性を踏まえた場合、複数講師については評価指標の変更も含めた検討とあるため、専門的な講義の依頼を大事にする意向と順序性を考慮した努力がされている点を評価したいと思う。</li> <li>・更に電子教科書の導入による学習効果も評価に値すると思われる。</li> </ul>
Ⅳ 実習 (4項目)	<p>評価点【 4.8 】*昨年4.8</p> <p>令和3年度は8月の緊急事態宣言、1月のまん延防止等重点措置の発令に伴い2クールが学内実習となり、第3回実習指導者会議は紙面での報告となった。学内実習では、模擬電子カルテの活用や、オンライン演習、施設利用者へのインタビューなど、工夫を凝らした内容となった。臨地実習可能となつてからも、臨地と連絡相談を密にし、感染状況によって求められる対応を協議し、実習内容や学生への感染対策指導に反映した。臨地では業務量の増大から学生指導者の調整が困難な状況もみられるが、実習指導講師とも協力し安全で効果的な学習機会の確保に努めていく。来年度からの新カリキュラム開始に伴い、今年度2学年の領域実習から実習時間が変更になった。実習指導者会議が中止になったことから、変更内容等の周知に努めていく必要がある。また、実習要項や実習指導要綱の見直しは各領域担当で行っているが、新カリキュラムの運用に合わせた変更や修正が必要になるため、計画的に進めていく。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあり緊急事態宣言の中で臨地実習の困難への対処を図り運営された。</li> <li>・新カリキュラムに伴う臨地実習の構築に努め、計画的に進められており、評価できると思われる。</li> </ul>

<p>V 入学 (2項目)</p>	<p>評価点【 4.9 】*昨年4.8</p> <p>入学に関しては、昨年度平均4.8から今年度平均4.9へ上昇し、全般的に高い評価であった。</p> <p>評価項目17、入学者選抜については、校内入試担当者会にて協議し、入学選考委員会にて合格の判定を審議し、運営委員会にて合格者を決定しており、入学試験に関する実施方法や判定方法の明文化はなされてはいる。しかし、定期的に入学者選抜についての再確認・見直しは、必要であるとの意見があった。また、入試情報については、個人情報に配慮して、守秘義務を遵守しているが、さらなる強化も検討していく。また、社会情勢、地域情勢を踏まえた取り組みとして、昨年度から現行の指定校推薦制度に加え、公募型推薦制度を導入し、今年度2年目をむかえたが、県内高校からの問い合わせや応募もあり、今年度の公募型推薦制度受験者は増加したことから、公募型推薦制度の定着が図られていると言える。今後も、社会情勢の変化にあわせた入試制度の検討を継続していく。さらに、安定した学生確保のため、現行の指定校推薦制度のあり方に踏み込み検討していくことや社会人入試制度の導入に関しても、早期に検討を始める必要がある。また、今後の入学者選考に活用するために、入学生を多角的な視点から分析することが重要であり、分析方法のシステム構築も課題である。</p> <p>項目18、学校説明会は、今年度もコロナ禍で制約があったが、規模を縮小し、感染対策を行った上で「ぶちキャン2」を実施し、参加者からの評価は高かった。地元の学生確保に繋がる大切な行事なので、社会情勢に応じて学校説明会の開催方法等を工夫し、入学希望者開拓の取り組みを行い、本校の設立目的に沿った学生確保を継続していく。</p>	<p>評価点【 5.0 】</p> <p>・入試においては、社会情勢及び地域情勢を捉え、校内入試担当者会・入学選考委員会と十分な選考吟味がされ、2年目となる公募型推薦の効果も得られ、入学させたい学生確保に十分つながっていると認められ評価に値する。</p> <p>・学校説明会においても、コロナ禍にあっても校風を生かし工夫し、高い評価が得られていることから大いに評価できる。</p>
<p>VI 学生への支援 (4項目)</p>	<p>評価点【 4.7 】*昨年4.8</p> <p>昨年同様、平均4.7と全体的に高い評価であった。昨年課題であった、奨学金などの経済的支援や相談にのる担当教員が不明確であるという点は、教職員全員で情報を共有して学校全体で取り組むことで、今年度は効果的な支援に繋げることができている。学生の効率的なカウンセリング利用促進については、C-ラーニングを活用する等個別相談体制の充実も図られていた。</p> <p>学生の課外活動は、コロナ禍で活動が制限され、ほぼ活動ができていないため、学生の課外活動支援の評価は低かった。今後も、社会情勢にあわせながら学生の課外活動に関する支援は、継続していく。</p> <p>学習困難な学生の支援については、個別に対応するなど、支援体制は整っている。また、今年度はコロナ禍で、対面授業が困難な時期もあったが、リモート学習に切り替えるなど迅速に対応し、学生の学修の機会を奪わないよう教員が一丸となって努力した点は、大いに評価できる。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <p>・学生への支援を教職員が全員で共有し、学校全体で取り組んでいる。</p> <p>・特に、C-ラーニング活用による個別相談体制は、学生個々の看護師になる道を支え、心身の安心感につながると認められ、評価できる点である。</p> <p>・今後も継続した支援を願いたい。</p>
<p>VII 卒業・就職・進学 (5項目)</p>	<p>評価点【 4.7 】*4.8</p> <p>昨年同様、今年度平均4.7と高い評価であった。</p> <p>評価項目23、進路指導については、コロナ禍で学生個々への個別指導は難しい面もあったが、就職試験の時期が早まっていることを考慮し、在校生への積極的な進路指導や多岐に渡る幅広い進路選択支援等、強化して取り組んでおり、評価は高かった。</p> <p>卒業後の進路情報の情報収集に関しては長年継続した課題であったが、今年度末からホームページを活用した同窓会名簿管理が稼働するので、卒業生の状況把握が可能となる。今後は、同窓会名簿の効果的な活用方法のシステム構築が望まれる。</p> <p>評価項目25、卒業時の看護実践能力の到達度評価・指導については、実施しているが、卒業後の評価については、実施が困難な状況である。卒業時と卒業後の看護実践能力の到達度を評価し、現教育に反映しているかについては、不明確との意見があり、評価が低かった。</p> <p>評価項目26、国家試験の支援体制は、教員が精力的に取り組む、効果的な指導がなされていた。今後も、学校全体できめ細かな支援を継続していく。</p> <p>評価項目27、卒業生への就職支援と中途退職者の就職相談は、卒業生の卒業後の状況把握が不十分であることなどから、積極的な就職相談は実施できていない。今年度末に稼働する同窓会名簿管理による同窓会員の就職情報把握や、年度末に計画された卒業生を招いた「ホームカミングデー」開催という新たな取り組みを活用して、確認をしていく。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <p>・進路指導においては、1年次から個別指導に取り組み、幅広い進路選択支援がされている点、長年の課題であったホームページを活用した同窓会名簿の稼働に至ったことは、大いに評価できる。</p> <p>・卒業生の就業状況及び進路指導・就業継続の支援の充実につなげていただきたい。</p> <p>・また、今後はこの同窓会組織により卒業生と母校のつながりを軸として、会員相互の親睦への寄与・社会への貢献・母校の支援などの運営がなされていくよう期待したい。</p> <p>・ホームカミングデーという新たな試みも継続したほうがよい。</p>
<p>VIII 管理・財政・施設整備 (7項目)</p>	<p>評価点【 4.8 】*昨年4.8</p> <p>昨年度同様、全体評価としては平均4.8と高評価であった。</p> <p>項目28「適正な予算の執行、進捗管理」については、職員会議等で予算の執行状況、予算編成状況を伝えるなど、予算状況について積極的に教職員に示していることもあり、高評価であった。</p> <p>項目30「危機管理体制、防犯・交通安全意識の向上」について、毎年危機管理マニュアルを見直しして作成、教職員に共有を図っている。総合防災訓練は、毎年4月に教職員と学生で実施はしているが、看護専門学校が妊産婦等福祉避難所として指定されたことから、今後は妊産婦等福祉避難所の訓練を加えて実施していく必要がある。不審者侵入に対する監視体制整備が昨年は平均3.9であったが、今年度は平均4.6に上昇した。不審者の侵入に対して、学生登校後に正面玄関を施錠するなど人の出入りについて対策を講じ、強化した点が評価されていた。しかし、防犯対策に完璧などないため、今後も、継続して監視体制を見直し、監視体制強化に取り組んでいく。また、防犯の一環として富士警察署交通課をお願いしている交通安全教室の開催は、コロナ禍で難しい面もあるが、学生の安全を確保する大切な啓発の場であるため、今後も工夫して開催は継続していく。</p> <p>項目34「学生及び教職員の福利厚生施設整備」については、1階に学生と教員との交流スペースが必要との意見もあることから、次年度以降の検討事項としたい。</p>	<p>評価点【 4.9 】</p> <p>・予算編成において、教職員間で共通理解し周知されている。</p> <p>・特にICTの充実に向けて教職員一丸となって取り組み、実現を図られ、大いに評価できる。</p> <p>・不審者侵入に対する監視体制整備は体制強化対策について昨年評価3.6が4.6となり、対策が十分図られたと評価できる。</p> <p>・妊産婦福祉避難所の訓練については、計画を具体化し、実施に向けての綿密な実施計画を作成、実施をしてほしい。</p> <p>・学生及び教職員の福利厚生施設整備は、現在ある意見の実現化に向けて計画し、実施へ繋げてほしい。</p>

IX 教職員の育成 (5項目)	<p>評価点【 3.8 】*昨年4.1</p> <p>全体評価は、昨年平均4.1から今年度平均3.8に下降した。全体的に低い評価であった。</p> <p>項目36「専門性を高める体制」については、昨年平均4.3から平均4.1へと下降している。授業準備時間が不足しているとの意見が多かった。専門領域での研修を計画的に行なえる時間・経費が保障されているものの、専門的研究調査活動時間がとれていないという現状が浮き彫りとなった。</p> <p>特に項目37「計画的な研究調査活動」は昨年平均3.6から、今年度平均2.7と点数が下降しており、評価がとても低い。業務で精一杯という現状で、研究調査活動の体制は整えられていても時間の確保は困難であり、時間が絶対的に不足しているとの意見が大多数を占めていた。加えて、今年度はコロナ禍によりリモート学習に関わる準備時間が増加するなど、業務量全体が増加したとの声もあった。</p> <p>項目39「他教員の授業参観、講評制度」は、昨年平均4.0から今年度平均3.5と下降し、評価が低かった。授業参観等の体制はあるものの、参加する時間的余裕がないという意見が多い。そんな中、ICT授業に関しては、積極的に教員に呼びかけを実施し、参観できる環境が調整できていた点は、評価される。今後は、「IX教職員の育成」の評価がとても低いという現実を踏まえ、教員の研究調査時間確保を重要課題として、多角的に分析して、課題解決に向けて取り組んでいく必要がある。</p>	<p>評価点【 3.8 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究調査活動の体制は整えられているも時間の確保は困難、絶対的に不足とあり、課題解決の難しさが大きいと感じられた。</li> <li>・業務量の多い中、できることからはじめてみようと考え、研究計画書(案)の作成から少しずつ進めるなど、研究調査活動に着手し、一歩二歩と進めてみてはどうか。</li> <li>・また、他教員の授業参観についても計画を立て、参観日を明確にして、実施していけるよう努めてみてはどうか。</li> <li>・おそらく、令和3年度は新カリキュラムの構築に多くの時間がやされたと思われ、それらの時間を有効するなど、いかがか。</li> <li>・多角的に分析とあるので、抜本的検討を期待する。</li> <li>・人材育成は、とても大切。人事評価制度を有効活用するなど、人材育成に積極的に取組んでいただきたい。</li> </ul>
X 地域社会への貢献 (1項目)	<p>評価点【 4.6 】*昨年4.5</p> <p>全体評価は、昨年平均4.5から今年度平均4.6と増加した。コロナ禍で今年度の学生祭は校内開催のみで地域と交流することが困難となり、交流する機会を持つことができなかったが、スポーツ振興課からの要請で、感染対策を講じながら、看護助手として富士山女子駅伝のボランティア活動ができたことで、多少なりとも地域社会への貢献が行っていた。今後も、コロナ禍で制約があるかもしれないが、学校として、できる限りの活動推奨の支援は継続していく。</p> <p>ホームページ等を活用した広報活動は効果的に行えているので、広報活動に関しては、高い評価であった。学校周知の為に、広報活動は、さらに力を入れて、継続していく。</p> <p>令和4年度新1年生より、新カリキュラムがスタートするが、共に地域社会との交流等をどのように構築していくかが、継続した課題である。</p> <p>また、教職員は、富士市新型コロナウイルスワクチン集団接種会場にて、接種業務に従事しており、富士市職員として新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めている。</p>	<p>評価点【 4.6 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動のボランティア活動などについては、積極的・計画的に参画する方向性があるため、コロナ禍の状況を踏まえ、継続してほしい。</li> <li>・妊産婦福祉避難所の運営については、準備から実施へ向けて、早急に取り組んでいただきたい。</li> </ul>

- ◆学校評価委員会
- 委員長 富士市立看護専門学校 校長
  - 委員 富士市保健部長
  - 富士市立看護専門学校 副校長
  - 元富士市立看護専門学校 副校長
  - 富士市立看護専門学校同窓会長
  - 保護者代表